



洞爺湖町子育て支援センター TEL 0142-76-2008

メールアドレス kosodate.center@town.toyako.hokkaido.jp

R7年7月1日

ようやく気温も上がり日差しが暑いなぁと感じるようになりました。こども達の大好きな水遊びの季節がやって来ました。お天気がいい日には、水遊びや裸足になり砂場で遊んだり、海に行って貝殻を拾ったり波と追いかけて遊ぶのを楽しんだり季節の遊びが出来るといいですね。水分補給、着替え、帽子等の用意をお願いします。

子育て教室「ベビーマッサージ オイル無し」6/10

ママとパパに見守られ落ち着いた雰囲気の中で、お人形の赤ちゃんを使いながら、ベビーマッサージをしました。

今回は顔なじみでもある支援センター職員がインストラクターなので、ママ達もゆったりとしていました。ドキドキ緊張していたのは職員の方でしたが、マッサージを進めていくとニコニコと和やかな顔に！！ベビーちゃん達はマッサージをすると気持ち良くなったのかウトウトとしていました。和気あいあいと進めていく中で悩みやこんな時どうするの？って思っているママの話に3人目の子育てをしているママからのちょっとしたアドバイスや経験談。ベビー達に癒され、あっという間のひとときでした。

インストラクターの職員からの一言

ベビーマッサージは赤ちゃんにとって肌が丈夫になり免疫力が高まってきます。おなかの調子、手足の血液循環、呼吸器の働きが良くなりリラックス効果間違いなしです。ママにとってもこどもの心と体の健康を知り心地良い時間を過ごすことで親子の信頼関係や絆が深まります。普段の生活の中で、取り入れて欲しいです。



桜ヶ丘保育所開放 6/6

新しいお友だちが遊びに来ました。機嫌が良くニコニコでコロコロンって寝返りをして楽しんでいました。



入江保育所開放（計測） 6/20

お友だちになった二人でしたが、久しぶりでフニャと泣いちゃいました。人見知りもあるのかなと思いきや帰りには、ラブラブでした。



子育て教室「キラキラティータイム」が始まっています。

詳しくはポスター、洞爺湖町ホームページ、広報とうやこに掲載していますので

ご覧ください。子育て教室は予約制ですので直接、子育て支援センターに申込みをお願いします。

*10組になり次第、受付は終了になります。



「7月の予定カレンダー」

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3 	4 桜ヶ丘保菊所開放 (計測)	5
6	7	8 子育て教室 「災害に備えましょう」	9	10	11 洞爺保育所開放	12
13	14	15 	16	17	18 入江保育所開放	19
20	21 海の日	22	23	24	25 本町保育所開放	26
27	28	29 	30	31		

感覚遊び第二弾 バケツでポンポン！

道具を使って音を出すことを知るきっかけになる遊びです。手作りの太鼓に、興味津々になるでしょう。バケツの大きさを変えて、たたいた時に出る音の違いも味わってみましょう。

準備する物～バケツ（大・小）、布ガムテープ、紙芯（ラップの芯）、
発砲シート（プチプチなど）



- ・太鼓は、バケツの口に布テープを貼り巡らせる。
 - ・ばちは、紙芯の先を発砲シート（プチプチなど）を巻いてテープでとめる。
- 簡単に作れ、ママと一緒に楽しめる遊びの一つでもあります。「音が出たよ」「どっちが大きい音がする？」など言葉をかけたり歌を歌ったりしても良いと思います。



イヤイヤ期をどう受け止める？

「イヤイヤ期」が起こる理由

一般的に1歳半くらいから3歳頃の子どもにやってくる「イヤイヤ期」。あれもイヤ！これもイヤ！と事あるごとに怒ったり、泣いたりしますが、何も大人を困らせようとしているわけではありません。イヤイヤ期は、（第1次反抗期）ともいわれこの時期の「イヤイヤ！」は、子ども達の心が成長している証拠でもあります。子どもは、1歳半頃になると自分と他人の違いがわかるようになり、自己意識が芽生えてきます。すると「こうしたい」「自分でやりたい」と物事を自分から進んで行おうとする自発性が強くなります。一方で、言葉を理解したり言葉で表現したりする力、また、感情を抑えたりコントロールしたりする力は、十分に発達していません。そのため、自分がやろうとすることを周りに止められたり、思うようにできなかったりしたときに自分の気持ちをうまく言葉にしたり我慢したりできず「イヤ！」と感情を爆発させるのです。

「イヤ！」と言えることでさらなる成長につながる

イヤイヤ期の子ども達の「イヤ！」という言葉は、「自分でやりたい！」という気持ちの裏返しで、自己主張の第一歩です。そこで自分の主張が受け入れられたり、受け入れられなかったりする経験を通して、自分の気持ちを伝える力や感情をコントロールする力など、さまざまな能力を身につけていきます。子どもが「イヤ！」と言えることに価値があり、それが成長するきっかけになります。その際、当然ですが頭ごなしに否定したり、一方的に我慢させたりするのはNG。子どもの思いを察して、受け止めることが大切です。そのうえで、子どもの気持ちが落ち着くように、また納得できるようにサポートします。子どものイヤイヤに対応する大人は、そのたびに時間も労力もかかりますが、「イヤと言えるまで成長した」「やりたいという意欲が育っている証拠だ」などと、できるだけポジティブに捉えられるように心がけてみましょう。

（あそびと環境 0・1・2歳引用）

